

# 大阪大学図書館報

Vol. 18, No. 5/6 February 1985

## 目

## 次

- |                              |               |
|------------------------------|---------------|
| ○森鷗外「与謝野晶子論」とPercival Lowell | ○「工学の基本的図書」刊行 |
| ○微研図書室創立50周年                 | ○会 議          |
| ○昭和58年度主題別利用統計               | ○日 程          |
| ○第5回国際医学図書館会議について            | ○人 事          |

## 森鷗外「与謝野晶子論」とPercival Lowell

中崎昌雄

森鷗外の晩年の日記は「委蛇録」と題され和紙に毛筆で漢字だけで書かれている。大正10年は彼の死の前の年であるが、その8月23日と25日に「観象」という記入がある。このとき彼の一家は日在の別荘に来ている。「観象」とは星を見ることである。小堀杏奴「晩年の父」には杏奴が父親と川岸に星を見に行く話が少女のみずみずしい感触そのままに描かれている。

「観象」が星を見ることとすぐ気が付いたのは、私が子供のときからの星好きだからである。

こんなことを種にして短い文章を書いてみたのであるが、この時、ついでに鷗外の作品の中にどれだけ星のことがあるのかと、当にしないでパラパラと全集を眺めてみた。だから次のような短い文章を全集26巻（昭和48年刊）に発見したのは全くの偶然である。

「与謝野晶子さんに就いて」

「僕が特に言はなくてはならない事は無いだらう。併し樋口一葉さんが亡くなってから、女流のすぐれた人を推すとすると、どうしても此人であらう。晶子さんは何事にも人真似をしない。個性がいつも確かに認められる。この頃アメリカ人Percival Lorell は極東人の特性は個性の無いところにあると云ってゐる。晶子さんを見せて遣りたい。但パリーにはいよいよ見せる事になった。」

この文章は「中央公論」明治45年6月号「与謝野晶子論」特集に寄稿したものである。晶子は前年から渡欧している鉄幹と一緒にいるために、5月シベリア経由でパリに向おうとしている。明治45年の「鷗外日記」には次のように書かれている。

2月11日（日） 平野久保来訪して与謝野晶子が洋行の事を云う。

2月16日（金） 安井洋、平野久保、与謝野晶子来訪す。

2月21日（水） 与謝野晶子を日比翁助に紹介す。

平野久保は号を万里とって「明星」の同人である。父が本郷森川町で煙草屋をしていた

頃、鷗外の長男於菟はここに一時あずけられていた。晶子は鷗外を介して三越百貨店の日比翁助に紹介され「洋行補助として」千円を贈与されている。

5月4日(土) 与謝野晶子来り別る。

5月5日(日) 妻と茉莉とは与謝野晶子を送り新橋に行く。

5月21日(火) 滝田哲太郎の使来て晶子論の中に予の意見を加えんことを請う。

この滝田哲太郎は「中央公論」編集長として鳴らした樗陰のことで、このときは有名な「滝田のお抱え傳」にのって使いがきたらしい、

「極東人の特性は個人性の無い処に在る」といったアメリカ人は、「The Soul of the Far East」(1884、明治21年)を書いた Percival Lowell(1855～1916)に違いない。この綴字の誤りは「中央公論」のときからで、鷗外も訂正していないし、どの全集の後記にもそれについてのコメントはない。

鷗外が Lorell と思っていたのか、Lowell と知っていて誤って書いたのか、など今となってはわからない。ただ「晶子論」が明治45年なのに24年もまえのLowellの本を「此頃」というのは少しおかしい気がする。

「極東の心」は来日1年前のLafcadio Hearn が読んで「a godlike book」と興奮して友人への手紙に書いている。非常に気取った文体でそう読み易い本ではない。Chamberlain は「日本事物誌」の中で「ボストン人らしく華麗な形而上学を用いて」と批評している。私などの英語では歯が立たない。ほんとうに鷗外は原本を通読したのだろうか。Lowell の原本で「個人性」は「individuality」で、「個人性の無いこと(没個人性)」は「impersonality」である。Lowell の日本人論はその頃に流行したHerbert Spencer流「進化論」を振りかざした勇しいものであり、これに対するHearnの反応とか、同志社にいたGulickの反論は紹介すれば面白いのだが、ここでは割愛せざるを得ない。ただこのLowellが例の「ローエル天文台」を自費で作し、火星観測をして「火星住人説」を唱えた人と同一人物であることを言わない訳にはいかないだろう。彼はHearnより7年前に日本に来ているが(1883、明治16年)、Hearn が熊本の第五高等中学校で教えていた明治26年の年末に日本を去った。在日中Hearn に会うことはなかったし、2度と日本にも来なかった。

Lowell がこの時期にいそいで帰国したのは、次の年1894年10月に火星の近日点の「衝」(接近)があり、これに間に合せて急造の天文台をアリゾナ州に作らねばならなかったからである。Lowell 「Mars」(火星)が出版されたのは次の年で、それから3年経ってH. G. Wells が火星人の襲来を物語にした「The War of the Worlds」を書くことになる。

(名誉教授)

## 微研図書室創立50周年

藤尾 啓

昭和59年9月29日(土)、大阪大学微生物病研究所講堂において、微研創立50周年記念式典が行われた。昭和9年(1934)2月、山口玄洞氏、竹尾治右衛門氏、その他大阪民間人の絶大な助力のもと、当時の学長楠本長三郎先生、及び細菌血清学教授谷口腆二先生等の努力により、本研究所が創立されたという事実を改めて想起したばかりである。大阪大学附属図書

館史によれば、同年11月、本研究所の設立と同時に微研図書分室が設置されたと記載されている。

当時の図書分室がどの様なものであったかは想像しようもないが、それから15年を経て、太平洋戦争が終ってまもない昭和24年（1949）偶然の機会から、本研究所図書室を利用する身となった。当時は図書室といってもほんの小さな規模のもので、2人づつ向い合せの小さな閲覧机が3～4組あった程度だった。図書業務は若い女性が1人、暇さえあればものすごいスピードで英文タイプを打っていたのを想い出す。

たしか谷口腆二先生の名言集の中に、文献を読まないで新発見を連続する等という強烈な皮肉があった。情報過多の現代に生きる我々にとってもこの情勢は変わっていない。過多であればそれなりの対応を迫られるのである。

さて当時駆け出しの我々は如何に図書室を利用しただろうか。第一コピー等はない。仕方がないから、ジャーナルを読んでは自分なりの要約をノートあるいはカードに書く。それでもどうしてもこの文献だけは始めから終わりまで繰り返し読まなければならないというのがでてくる。当時英文タイプを打てる人は少なかったし、第一英文タイプライターそのものが貴重品だった。そうなると余計タイプライターで打って貰いたくなる。忙しい図書室の人になので無理をきいて頂く。2～3日してやっとの思いで全文を手に入れることになる。

当時の文献は懇切丁寧で、それだけを読めばすぐその実験を追試できる様に書いてある。それでも駆け出しにとっては引用された古い文献にさかのぼらないと完全な理解に達しないというわけで、図書室の書架の間を行き来する。当時我々にとって最も大きなショックはどのジャーナルも必らず戦争の為の欠本があることで、なければ余計にそこに大切な情報が隠くされている様に思えて来る。彼って当時サンケイ会館にオープンしたアメリカの図書館（アメリカ文化センター）は我々の不消化感を大いに緩和してくれた。

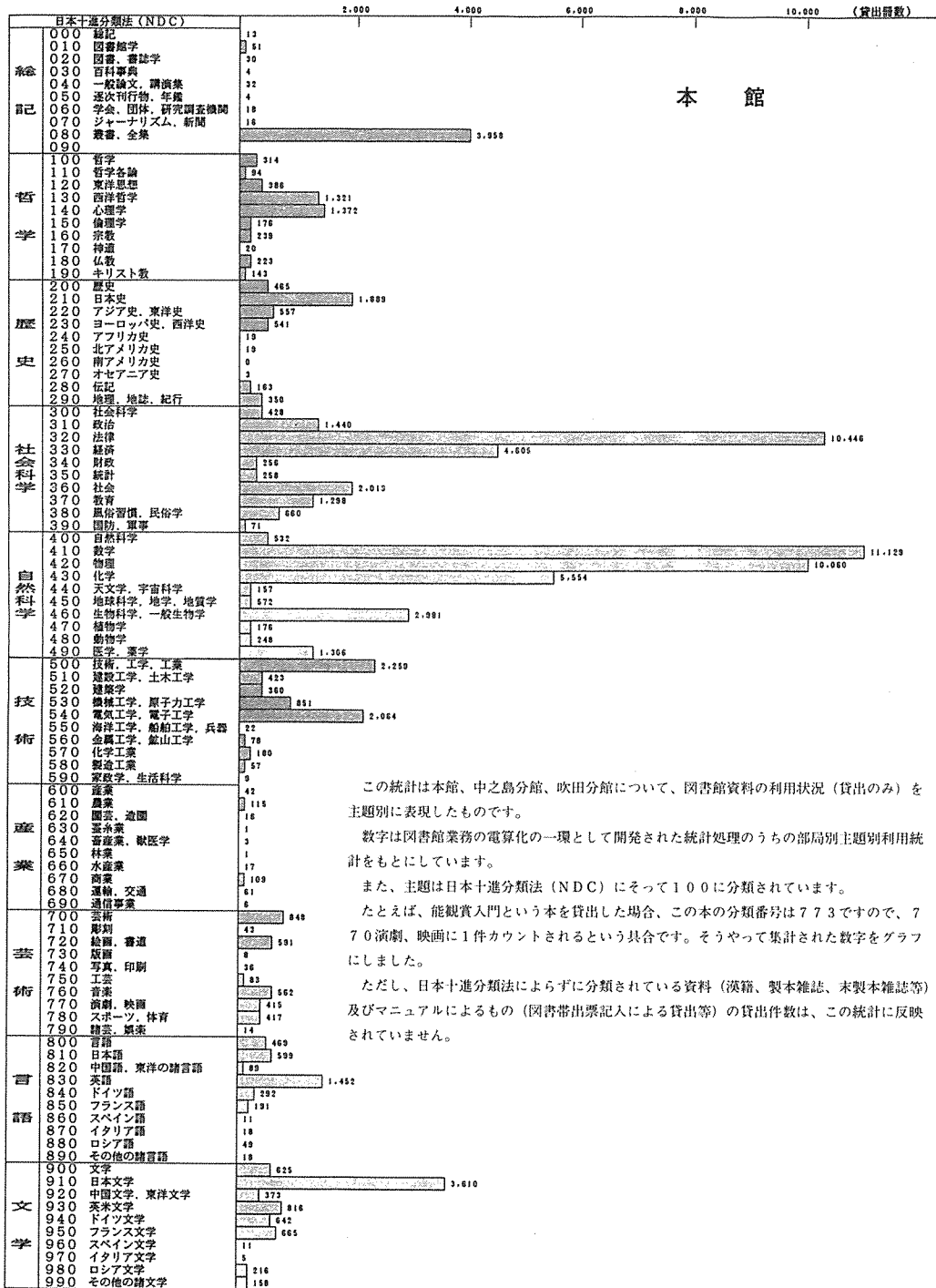
もう一度我々の小さな図書室に話をもちくと、図書室は単に本を読む所ではなくて、当時は研究者達のチョットした集会所も兼ねていた様に思う。そこへ偶然ジャーナルを見に来ていた連中が、突然仕事の事について議論を始める。ミシミシ鳴る板張りの廊下を歩いていると廊下までつつ抜けの音が聞えて、それだけで誰がやっているのかすぐわかる。もちろん現在の微研の図書室は立派になり過ぎてそんなことはとても許されない。

それにしても情報量の増大には目を見張らされる。大阪大学の洋書の蔵書数を見ると、昭和25年（1950）には119,809となっている。それが10年毎にほぼ確実に2倍になって、昭和55年（1980）には877,625となっている。それでもようやく経済的な減衰時代に入って、その拡大も鈍化の時代に入った。我々の微研分室でも如何にして質の高い情報のみを維持していくか、毎年延々と図書室運営委員会が持たれるのも止むを得ないことだろう。

さて10年後の微研図書室はどうなっているだろうか。閲覧室にはコンピューターの端末ディスプレイが林立して、我々はフロッピーディスクからの情報を眺めているだろうか。ジャーナルを買うかわりにフロッピーディスクを買っているだろうか。その程度ではすまないかも知れない等と考える一方、人類がこれ程長い歴史を通して愛用してきた紙の印刷物、それを保管する図書室というのはやはりなくなならないだろう等と考える。

（微生物病研究所 教授）

# 昭和58年度主題別利用統計



この統計は本館、中之島分館、吹田分館について、図書館資料の利用状況（貸出のみ）を主題別に表現したものです。

数字は図書館業務の電算化の一環として開発された統計処理のうちの部局別主題別利用統計をもとにしています。

また、主題は日本十進分類法（NDC）にそって100に分類されています。

たとえば、能観賞入門という本を貸出した場合、この本の分類番号は773ですので、770演劇、映画に1件カウントされるという具合です。そうやって集計された数字をグラフにしました。

ただし、日本十進分類法によらずに分類されている資料（漢籍、製本雑誌、未製本雑誌等）及びマニュアルによるもの（図書帯出票記入による貸出等）の貸出件数は、この統計に反映されていません。

日本十進分類法 (NDC)		2,000	10,000	2,000	4,000	6,000
		(貸出冊数)		(貸出冊数)		(貸出冊数)
系	000 総記	0		000	10	
	010 図書館学	0		010	2	
	020 図書、書誌学	0		020	5	
	030 百科事典	0		030	0	
	040 一般論文、講演集	0		040	0	
	050 速次刊行物、年鑑	0		050	0	
	060 学会、団体、研究調査機関	0		060	20	
	070 ジャーナリズム、新聞	0		070	0	
	080 叢書、全集	305		080	11	
	090			090	0	
哲	100 哲学	4		100	17	
	110 哲学各論	7		110	0	
	120 東洋思想	0		120	0	
	130 西洋哲学	2		130	0	
	140 心理学	17		140	17	
	150 倫理学	0		150	0	
	160 宗教	5		160	0	
	170 神道	0		170	0	
	180 仏教	0		180	0	
	190 キリスト教	0		190	0	
歴	200 歴史	1		200	44	
	210 日本史	2		210	0	
	220 アジア史、東洋史	0		220	0	
	230 ヨーロッパ史、西洋史	0		230	0	
	240 アフリカ史	0		240	0	
	250 北アメリカ史	0		250	0	
	260 南アメリカ史	0		260	0	
	270 オセアニア史	0		270	0	
	280 伝記	37		280	0	
	290 地理、地誌、紀行	70		290	59	
社	300 社会科学	3		300	19	
	310 政治	1		310	32	
	320 法律	0		320	0	
	330 経済	1		330	64	
	340 財政	0		340	0	
	350 統計	0		350	6	
	360 社会	4		360	39	
	370 教育	0		370	14	
	380 風俗習慣、民俗学	0		380	12	
	390 国防、軍事	0		390	2	
自	400 自然科学	17		400	250	
	410 数学	29		410	3,278	5,429
	420 物理	11		420	0	
	430 化学	67		430	2,467	
	440 天文学、宇宙科学	0		440	28	
	450 地球科学、地学、地質学	0		450	262	
	460 生物科学、一般生物学	238		460	875	
	470 植物学	1		470	21	
	480 動物学	38		480	16	
	490 医学、薬学	9,581		490	90	
技	500 技術、工学、工業	10		500	4,878	
	510 建築工学、土木工学	0		510	1,952	
	520 建築学	0		520	1,758	
	530 機械工学、原子力工学	0		530	1,568	
	540 電気工学、電子工学	0		540	4,006	
	550 海洋工学、船舶工学、兵器	0		550	202	
	560 金属工学、鉱山工学	0		560	2,675	
	570 化学工業	0		570	435	
	580 製造工業	0		580	37	
	590 家数学、生活科学	1		590	2	
産	600 産業	0		600	33	
	610 農業	0		610	3	
	620 園芸、造園	0		620	33	
	630 養蚕業	0		630	0	
	640 畜産業、獣医学	0		640	1	
	650 林業	0		650	10	
	660 水産業	0		660	10	
	670 商業	0		670	0	
	680 運輸、交通	0		680	31	
	690 通信事業	0		690	3	
芸	700 芸術	4		700	47	
	710 彫刻	0		710	1	
	720 絵画、書道	4		720	65	
	730 版画	0		730	0	
	740 写真、印刷	2		740	78	
	750 工芸	0		750	30	
	760 音楽	1		760	17	
	770 演劇、映画	0		770	2	
	780 スポーツ、体育	3		780	10	
	790 精芸、遊楽	0		790	3	
言	800 言語	4		800	7	
	810 日本語	0		810	11	
	820 中国語、東洋の諸言語	0		820	2	
	830 英語	63		830	74	
	840 ドイツ語	0		840	12	
	850 フランス語	8		850	2	
	860 スペイン語	0		860	0	
	870 イタリア語	0		870	0	
	880 ロシア語	6		880	2	
	890 その他の諸言語	0		890	0	
文	900 文学	10		900	17	
	910 日本文学	77		910	0	
	920 中国文学、東洋文学	0		920	0	
	930 英米文学	16		930	1	
	940 ドイツ文学	8		940	0	
	950 フランス文学	2		950	0	
	960 スペイン文学	0		960	0	
	970 イタリア文学	0		970	0	
	980 ロシア文学	2		980	0	
	990 その他の諸文学	1		990	0	

中之島分館

吹田分館

## 第5回国際医学図書館会議について

世界各国の医学図書館関係者が一堂に会し、医学分野の図書館・情報学に関する現代的課題を研究討議する第5回国際医学図書館会議（5th ICML; International Congress on Medical Librarianship）が下記のとおり開催されます。

- 期 間 1985年9月30日（月）～10月4日（金）
- 会 場 日本大学会館（東京）
- テ ー マ 医学図書館——一つの世界：資源、協力、奉仕（Medical Libraries—One World: Resources, Cooperation, Services）
- 主 催 国際図書館連盟（IFLA）、日本医学図書館協会（JMLA）
- 共 催 世界保健機構（WHO）
- 主な内容
  - 9月30日（月） プレコンGRESS（米国医学図書館協会（MLA）提供継続教育コース）
    - 1) Biomedical Materials - Selection, Aquisition and Management
    - 2) Drug and Pharmaceutical Information Resources
    - 3) MEDLINE and Index Medicus for the Health Sciences Librarian
    - 4) MeSH and NLM Classification
    - 5) Planning and Management of Basic Health Libraries
  - 10月1日（火）～10月4日（金） 本会議
    - 開会式
    - 基調講演（牛場大蔵慶応大名誉教授）
    - テーマ講演
      - 1) サービス (Ms. Barbara Proud; 討論者: Mrs. Tsu Ping Woodhull)
      - 2) 協力 (Nancy Lorenzi, Ph. D.; 討論者: Ms. Nina Matheson)
      - 3) 資源 (Mr. Adrian Senadhira; 討論者: Mrs. Lucilda Hunter)
      - 4) 医学図書館員（裏田武夫東大教授; 討論者: 津田良成慶応大教授）
    - セッション（アジア、中近東、ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカ、オセアニアから35カ国120名が、45のグループに分かれて発表）
    - 総会
    - 閉会式
    - その他図書館見学、パーティーなどを予定。
  - 10月5日（土）～ ポストコンGRESS・ツアー
- 登 録 料 1985年 4月30日まで 40,000円
  - 〃 5月1日以降 50,000円

本学附属図書館中之島分館からは、日本における医学生物系外国雑誌センターとしての中之島分館が収集している外国雑誌の書誌分析、利用分析を中心にセンター館の現状、将来の役割について2編の論文を発表する予定です。

## 「工学の基本的図書」刊行

このたび吹田分館では、工学各分野の基本的な図書の解題書として「工学の基本的図書」(B5版、172P)を刊行いたしました。

この図書は、工学教育の一助とするため、本学工学部各学科(専攻)の図書委員の方々に執筆をお願いして、昭和51年度より昭和57年度までの期間、当分館の図書館報であったLibrary News誌(現在は当館報に吸収)に連載いたしました「工学の基本的図書シリーズ」に追加・改訂等を行い、1冊の図書として再編集したものです。

工学教育のガイドブックの1つとして、また、工学分野における図書を選定するためのツールとして活用いただければ幸いです。

なお、残部がありますので、御希望の方は、当分館運用掛までご連絡下さい。

### ■■■■■■■■■■ 会 議 ■■■■■■■■■■

#### —— 図書館委員会 ——

59. 11. 20 (火) 15:00~17:35 (会議室)

協議事項 1. 次期附属図書館長候補者選考について大阪大学附属図書館長選考基準にもとづいて投票が行われ、医学部後藤稠教授(現中之島分館長)を次期館長候補者として推薦することが決定された。 2. 高額図書資料の購入について「高額図書資料懇談会報告——高額図書資料の共同購入及び共同利用の方策について」をとりまとめたことについて詳細な説明があり、これについて質疑応答及び種々の意見交換が行われた。その結果「高額図書資料について審議するための高額図書資料小委員会」を図書館委員会の下に置くこと、「高額図書資料購入費」(仮称)予算を新設するとした場合、その目安額として全学教官当積算校費(当初予算)のおよそ1%相当額を計上することを各部署で検討願い次回引き続き協議することになった。

#### —— 薬学部分館運営委員会 ——

59. 11. 22 (木) 11:00~11:30 (薬学部会議室)

協議事項 1. 薬学部分館長の改選について、現分館長の岩田宙造教授が昭和59年12月19日付で任期満了となるため、後任分館長の選出にあたり投票を行い岩田宙造教授が再選された。

### ■■■■■■■■■■ 日 程 ■■■■■■■■■■

59. 9. 17 国公立大学図書館協力委員会文献複写委員会(第32回)

(奈良県立医科大学)

59. 9. 27 第15回国公立大学図書館協力委員会

(関西大学)

59. 10. 8 近畿地区国公立大学図書館協議会第9回館長・事務(部・課)長連絡会議  
(大津市さざなみ荘)
59. 10. 15  
16 東京大学文献情報センター図書館ネットワーク専門委員会ワーキンググループ  
(東京大学)
59. 10. 18  
19 第55回日本医学図書館協議会総会 (神戸相楽園会館)
59. 11. 5 } 世界の本展 (本館)
59. 11. 9 }
59. 11. 8 第17回国立七大学附属図書館部課長会議 (京都大学)
59. 11. 8 昭和58年次国立七大学附属図書館協議会 (京都大学)
59. 11. 9 昭和60年度国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会(第1回)  
(京都大学)
59. 11. 9 国立大学図書館協議会理事会(昭昭59年度第2回)及び常務理事会(昭和59年度第1回)  
(京都大学)
59. 11. 9 日本医学図書館協議会理事会(昭和59年度第3回) (日本大学)
59. 11. 14 高額図書資料懇談会(第5回) (本館)
59. 11. 20 図書館委員会 (本館)
59. 11. 22 薬学部分館運営委員会 (薬学部)

■■■■■■■■■■ 人 事 ■■■■■■■■■■

59. 9. 29 辞 職 山之内 弘 子 閲覧課閲覧第一掛事務補佐員
59. 10. 13 〃 宮 本 公 子 医学情報課運用掛事務補佐員
59. 10. 16 〃 塩 山 洋 閲覧課参考掛事務補佐員
59. 10. 16 〃 神 田 有 閲覧課閲覧第一掛事務補佐員
59. 10. 16 採 用 高 見 明 浩 閲覧課参考掛事務補佐員
59. 10. 16 〃 嶋 本 勝 浩 閲覧課閲覧第一掛事務補佐員
59. 11. 1 〃 北 折 富 宏 閲覧課閲覧第一掛事務補佐員
59. 11. 1 〃 仲 本 邦 子 吹田分館運用掛事務補佐員
59. 11. 1 配 置 換 内 田 久 子 医学情報課運用掛事務補佐員(吹田分館運用掛)